○参加者
県都市教育長協議会代表、県町村教育長協議会代表、県小学校長会代表、県中学校長会代表、県高校長協会長、県公立小・中学校教頭会代表、県ＰＴＡ連合会代表、県高校ＰＴＡ会長、小・中学校ＰＴＡ会員、福島市少年センター、県精神保健センター、県中央児童相談所、県北社会福祉事務所、県保健福祉部児童家庭課、県教育センター教育相談部、県教育庁生涯学習課、県養護教育センター相談係、県警少年課長、県補導委員協会長、県福島保健所、専任教育相談員、県教育庁高等学校教育課、県教育庁各教育事務所生徒指導担当指導主事、県委嘱学校教育指導委員（生徒指導担当）
県教育庁義務教育課指導主事　　計65名

ウ　県教育委員会主催（各教育事務所）
○期　日　各教育事務所ごとに指定した日（２回）
○参加者　市町村教委関係者、校長、教頭、教諭、養護教諭、指導主事

④　いじめ問題等対策研修講座
○期　日　平成９年７月22日(火)～８月８日(金)
○会　場　国立教育会館学校教育研修所
○参加者　岩代町立小浜中学校教諭　　齋藤　直
いわき市立小名浜第一中学校教諭　　黒川　智弘
県立岩瀬農業高等学校教諭　　佐藤　勉

⑤　登校拒否研修講座
○期　日　平成９年８月25日(月)～８月29日(金)
○会　場　国立オリンピック記念青少年総合センター
○参加者　県教育センター教育相談部主任指導主事　　長谷川次男
田島町立荒海小学校教諭　　菊地　好博
鏡石町立鏡石中学校教諭　　増子　清蔵

⑥　学校不適応対策全国連絡協議会
○期　日　平成９年10月６日(月)～10月７日(火)
○会　場　東京医科歯科大学
国立オリンピック記念青少年総合センター
○参加者　県教育庁義務教育課指導主事　　宍戸　賢一
県教育庁高等学校教育課指導主事　　栗村　知
県教育センター教育相談部長　　高宮　政博
郡山市教育委員会指導主事　　志村　隆弘
県立船引高等学校教諭　　武田　幸子
県ＰＴＡ連合会事務局長　　小松　栄

⑦　ボランティア教育研究協議会
○期　日　平成９年11月６日(木)～11月７日(金)
○会　場　国立オリンピック記念青少年総合センター
○参加者　県教育庁義務教育課指導主事　　片寄　信
西会津町立群岡小学校教諭　　三留　純
いわき市立磐崎中学校教諭　　小泉　俊夫
県立川口高等学校教諭　　猪狩　幸一

### (2)　進　路　指　導

①　進路指導に関する研修会

ア　文部省主催
・研修会名　平成９年度進路指導講座（中央講座）
・期　　日　平成９年６月23日(月)～６月27日(金)
・会　　場　筑波大学
・参加者　北会津村立北会津中学校教頭　　滝沢　玲子
南郷村立南郷中学校教諭　　伊東　靖彦
川内村立川内中学校教諭　　根本　崇

イ　文部省・国立教育会館主催（共催）
・研修会名　平成９年度全国中学校進路指導研修
・期　　日　平成９年５月22日(木)～23日(金)
・会　　場　国立教育会館
・参加者　30名　校長会代表、各管内代表（進路指導担当指導主事、教員）

## 7　幼稚園教育

本年度公立幼稚園は分園２園を含み、240園と変わりがない。学級数は１学級増加しているが幼児数の減少から少人数保育になっているところも多い。県全体の平均学級園児数は、21.0人である。５歳児の就園率は、75.0％で（全国平均62.5％）東北第２位、全国でも５位となっている。幼稚園設置基準の一部改正があり、幼稚園未設置市町村の解消や就園率の地域間格差是正、第３次幼稚園教育振興計画の策定に伴う３歳児保育、その他混合保育、預かり保育など課題も多い。

兼任園長等を対象とした「園長等専門講座」をはじめとして主任等専門講座、保育技術専門講座、実技講習会、新規採用教員研修会など経験や職能に応じた研修により教員の資質の向上を図った。

さらに、幼稚園教育の一層の充実を図るため、市町村教育委員会、福島県公立幼稚園教育研究会並びに福島県全私立幼稚園協会等の協力を得て、次の事業を実施した。

### (1)　幼稚園教育課程都道府県研究集会

①　主　　催
福島県教育委員会、福島県公立幼稚園教育研究会

②　期　　日
平成９年10月１日～11月６日のうち１日

③　会　　場（県内６ブロック）
県北、県中、県南、会津（南会津）、相双、いわき

④　研修主題
（統一主題）幼稚園において、幼児の興味や欲求に応じ、幼児とともに充実した生活をつくり出すためには、環境をどのように構成すればよいか。
（分科会主題）統一主題について次のような観点から研究する。
A　自然な生活の流れの中で、先生や友達と触れ合いながら生活に必要な習慣や態度を身に付けるようになるには、環境をどのように構成すればよいか。
B　直接的な体験の中で知的好奇心を育み、物の性質や数量などに対する感覚を豊かにしていくようになるには、環境をどのように構成すればよいか。
C　友達と喜びや悲しみを共感し、思いやりをもってともに過ごす楽しさを味わうようになるには、環境をどのように構成すればよいか。
D　自分の生活に様々な人がかかわっていることに気づ